

# 国語科学習指導案

日 時 令和3年5月28日（金）公開授業 I

学 級 岩手大学教育学部附属中学校

1年A組34名

会 場 1A教室

授業者 鈴木 駿

## 1 単元名

1分間スピーチ ～生き生きと伝えよう～

## 2 単元について

### (1) 学習者観

入学後、詩と説明的文章、日本語の音声の特徴についての学習を行っている。詩の単元では群読を行い、詩の内容を踏まえた上でいかに音声で表現するかについて学んでいる。そこでは、声の強弱やテンポ、詩のもっている独特のリズム感など、表現の工夫に着目しながら学習に取り組む学習者が多かった一方、実際に発表した際の動画を見た際には「自分たちが伝えたかったことが十分に伝わっていなかった」「自分を客観視することで足りない表現力に気付いたので、もっと向上させていきたい」と振り返った学習者が多くいた。また、説明的文章の学習では文章の構成をとらえながら要点をまとめ、要約する学習を行っている。これは、序論、本論、結論といった説明的文章の基本的な構成の理解や、文章の中心的な部分と付加的な部分を見分けながら、文章の内容を理解する力を養うことをねらいとしたものである。学習者は「話し上手になりたいか」という問いに対し95%が「なりたい」という思いをもちながらも、「人前で話すことが得意だ」と答えた学習者は26%にとどまった。これは、学習者が話すことの力を身につけたい、上手に話ができるようになりたいとは思いつつも、どのように話せばよいのか迷いながらここまで生活してきたことの裏付けとなる。1学年では発信力の向上をねらって毎日の朝会で順番に1分間スピーチを行っているため、学習者はどんな題材をどのように発表するかを日常的に考えている。加えて、本校では総合的な学習の時間を「HS（ヒューマンセミナー）」と位置づけ、生き方を考える学習を行っている。そこでは学習者が学んだ成果をプレゼンテーションで発表する機会が数多くあり、今回の単元で学んだことを発揮できるよう育成を図る。

### (2) 学習材観

今回は1分間スピーチを題材に取り上げる。スピーチとは本当に共有したい情報や意見を発信し、それを聞き手に同意してもらったり、相手の行動変容を促したりすることが目的となる。そのためにはまず伝える相手への意識をもつことが前提となってくる。「相手がどう聞いているか」「相手にどのくらい伝わっているか」「相手にどのように理解されているのか」等、常に相手の側に立った姿勢が求められる。そのためには伝える内容や展開そのものが魅力的であることはもちろんのこと、話すことのスキルも重要な要素となってくる。発話速度や発話明瞭度などの音声言語の工夫に加え、聴衆を引き付けるための視覚的なパフォーマンスなど、様々なスキルが求められる。今回の単元では学習者に理想とする話し手の姿を想像させながら、実際にそのスキルを活用させていきたい。しかし今回の単元だけではその理想とする姿の実現には至らないことが予想される。プレゼンテーションなど今後3年間の学習の見通しも持たせたいうえでさらに主体的に学習に取り組むような仕掛けを展開していきたい。

### (3) 教科研究との関わり

#### ① 主体的・対話的で深い学び

学習者は1分間スピーチに対して、「もっと聞く人に興味をもって話を聞いてもらいたい」「自分の伝えたいことをもっと効果的に表現したい」という願いを持っている。また、スピーチが上達することは自分の将来の仕事においても有益であるという自覚をもっており、スピーチの取り組みに対する課題意識や必要感が強い。また、自分の話すこと的能力に自信がない学習者が多く、他者から学んだり、自分自身で振り返ることで能力を高めたいという意欲を持っている。そこで、今回は学習者同士がスピーチをしている様子を取めた動画を自由に閲覧できる状態にし、適宜他の学習者のスピーチを見て学んだり、自由に議論したりすることができるようにする。加えて、今回はスピーチのスキルを学習者とともに考え、効果を考えながら表現させることで全員がその学習内容の習得を図る機会を設ける。「このスキルを用いると、聞き手の反応がこう変化した」「そのねらいであれば、そっちのスキルを用いるより、このスキルを使ったほうが効果的ではないか」と、高次の学習が可能になる。

## ② 情報・情報技術の効果的な活用

一人一台端末の実現によって、これまでより話すことのメタ認知を簡単に行うことが可能になった。これまでは教師が生徒の話している様子をビデオに収め、それを見せたり、他の学習者と相互評価を行わせるなどのフィードバックの方法が主流であったが、これらは手間と時間、納得感の面で持続的・効果的な指導が難しかった。これからは生徒が自身の端末で自分の話している姿を撮影し、それをすぐに確認することができるようになる。今回の単元ではその利点を生かし、スピーチしている様子を撮影したものを客観的に分析させ、自分の表現に役立てさせる。

また、自分の考え方や伝え方をメタ認知するための知識や情報についても指導を行う。スピーチという自分の考えの発信の効果的な方法について考えさせ、それを他の学習場面においても活用させることで実生活に生かそうとする態度も養いたい。

## ③教科横断的カリキュラムマネジメント

発表のスキルは他教科でも基盤となるスキルである。余郷（1984）によると「生き生きと話す」ことを目指した「必然の場」として①学習活動の一部にあたる説明・発表の場②独立の位置を持つ説明・発表の場③研究発表会や意見発表会における説明・発表の場の3つを挙げている。各教科での自分の意見を発表や話し合い活動や、本校の総合的な学習の時間（ヒューマンセミナー、HS）におけるプレゼンテーションなど、様々な場面で国語科での学びを活用することが予想される。また、今後の見通しとして、話すことの学習においては英語科とのタイアップも考えられる。今回学習者が身につけたスピーチの表現を英語でも活用できるように取り組みを進めることが可能になる。言語を扱う教科が共通した表現の方法を一貫して指導することができれば、学習者の話す際の意識を向上させることができる。将来的には教師や学校全体の共通認識のもと指導を行うことで、より効果的に学習者の話すことの力を向上させていく。

## 3 単元の目標

### 【知識及び技能】

- ・ 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。((2)ア)

### 【思考力、判断力、表現力等】

- ・ 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(A(1)ア)
- ・ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(A(1)ウ)

### 【主体的に学習に取り組む態度】

- ・ 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

## 4 単元計画

### (1) 本単元における言語活動

自分が伝えたい内容を1分間スピーチにまとめ、相手の反応を見ながら生き生きと話す。

(関連：【思考力・判断力・表現力等】(A(1)ウ))

### (2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ((2)ア)	① 話すことにおいて、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ② 話すことにおいて、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。 (A(1)ウ)	① 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫し、練習を重ねながら自己調整を図り、自分の伝えたいことを進んで伝えようとしている。

(3) 指導と評価の計画

次	時	学習活動	評価の観点			【評価方法】
			知技	群衆	態度	
一	1	(1) 単元の見通しをもつ。 (2) スピーチについて理解する。 (3) 学習モデルを分析し、スピーチに必要な力について考える。				(学習課題)「最高のスピーチとはどのようなスピーチか」について、スピーチへの理解を基に自分の考えを持っている。【OPPシート】
二	2	(1) スピーチの題材を、マッピングを用いて決める。 (2) マッピングで広げたイメージを基に、スピーチの構成を考える。		①		(学習課題)「スピーチの題材を決めよう」について、日常生活の中から話題を決め、その構成を主体的に考えている。 【学習シート】
	3	(1) スピーチの題材についてグループで交流し、内容や構成、展開や表現の改善を図る。	①			(学習課題)「相手の興味を引くスピーチの題材とは」について、交流を通して深めている。 【学習シート】
	4	(1) スピーチのスキルについて理解する。 (2) 理解したことをもとに練習を行う。 (3) スピーチの様子を撮影し、ロイロノートで提出する。			①	(学習課題)「自分の話を生き生きと伝えるには」について、スピーチのスキルを活かして発表を行おうとする。 【学習シート】
三	5 (本時)	(1) 自分のスピーチの様子を動画で見る。 (2) グループで互いのスピーチについて助言したり質問し合ったりする。 (3) スピーチの練習を行う。		②		(学習課題)「自分のスピーチはどうすればより良くなるだろうか」について、自分や他者の発表からスピーチを改善しようとしている。 【学習シート】
	6	(1) 発表会を行う。 (2) 単元の振り返りを行う。		②		(学習課題)「発表会をしよう」について、自分の伝えたいことを相手の反応を踏まえて発表しようとしている。【パフォーマンス】

4 本時について

(1) 指導目標

伝えたい内容を踏まえた上でお互いのスピーチについて高め合い、スピーチのスキルを効果的に使おうとする。

(2) 評価規準

【思考・判断・表現】

② 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)

(3) 授業の構想

導入において、前時に撮影した自分のスピーチの様子を振り返る。自分の話している様子を客観的に振り返ることで、自分のねらいが達成されているかどうか、さらに工夫したりできることはないか考えさせるとともに、本時の学習に対する課題意識と必要感を持たせたい。展開では他の学習者のスピーチの様子をお互いに見合い、アドバイスを行う。その際には自分が何を伝えたいのか、そのためにどんな工夫を行おうとしたのかについて共有した後に行う。そのスピーチが相手に対してどのような影響をもたらしているのかなどについて、より客観的な視点で検討させ、改善を図らせたい。どのように表現をしたのか、スキルを多く用いているから良いという視点ではなく、あくまでもそのスキルが自分の表現においてどのように寄与しているのか、という視点で学習を進めたい。終結では話し合ったことを踏まえ、再度練習を行う。ペアで行い、互いに指摘し合ったことが改善されているか、もっとより良くすることはできないかを即時的にフィードバックし合い、次時に向けて主体的に練習を行わせたい。

(4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される学習者の反応等	時間 (分)	■指導上の留意点および評価 ・指導上の留意点 ○評価
導入	1. 前時までの学習を振り返る。  2. 学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。  学習課題  自分のスピーチはどうすればより良くなるだろうか？	10  3	○ 「聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) ・これまでの学習と自分のスピーチの姿を振り返り、本時の学習への課題意識を持たせる。
展開	3. ペアでお互いの発表についてアドバイスをしあう。 【学習活動1と3において 予想される学習者の考え】 ☆表情が豊かでスピーチの内容に合っていた。スピーチ前から明るい表情でいることは聞き手に安心感を与える。 ☆声の強弱を明確にすることで、自分の伝えたいことが相手に分かってもらえた。 ☆分かりづらい箇所で身振り手振りを使うことで、聞き手の興味を引き付けることができた。 ★使おうと思っていたスキルを使うことだけに意識が向かい、相手意識に欠けた発表になってしまった。スキルはあくまでも伝えたい内容を効果的に伝えるもの。使えば良いというものではない。 ★聞き手の目を見て発表することができなかつたため、相手に注目して話を聞いてもらうことができなかつた。大切なことを話すときには特にみんなに視線を送りたい。 ★動作が話す内容と一致していなかつた。話の内容を踏まえたジェスチャーを用いることで聞き手の理解を促したい。  4. 全体での共有と、自分のスピーチで気を付けることを確認する。 相手のどんな発言によって、自分のスピーチをどのように変えようと思ったか。  【学習活動4において 予想される学習者の考え】 ☆自分では間を問いの前に取った方が良いと思っていたが、Bさんから問いの後に間を取った方が考える時間もできて良いとアドバイスをもらったので、間を取るタイミングを変えてみたい。 ☆Aさんに「楽しさ」を伝えるスピーチなのに、笑顔が見られなと言ってもらった。笑顔で話し始めることで聞き手もその雰囲気共有してくれるので、心がけたい。	20  7	○ すすんで日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理して伝える内容を整理し、練習を重ねながら自己調整を図り、自分の伝えたいことを伝えようとする。  ・交流の中で生徒の考えをピックアップし、一般化を図る。
終結	5. 話し合いを踏まえ、練習を行う。  6. 今後の学習の見通しをもつ。	10	・ペアで行い、改善が見られたか適宜確認させながら行う。 ・次時は発表会

5 参考文献

- 権沢紫苑 (2018) 『学びを結果に変える アウトプット大全』 サンクチュアリ出版  
 永松茂久 (2019) 『人は話し方が9割』 すばる舎  
 西脇資哲 (2015) 『プレゼンは視線で決まる』 ダイアモンド社  
 齋藤孝 (2019) 『22歳からの社会人になる教室③ 齋藤孝が読む カーネギー「話し方入門」』 創元社  
 田近洵一・井上尚美 (1984) 『国語教育指導用語辞典』 教育出版